

## 早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	七森 真央 ( ななもり まお )
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	人間科学研究科 修士課程 2年
発表年月 または事業開催年月	2023 年 12月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	認知療法・認知行動療法学会第23回大会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	七森真央
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	Cone of Direct Gaze を測定する視線知覚課題の開発
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p><b>【目的】</b></p> <p>社交不安症の特徴として、他者からの視線を過剰に感じる、視線知覚の過剰性が挙げられる。視線知覚に関する先行研究では、Germer and Hecht (2007) が開発した Cone of Direct Gaze (CoDG) を測定するパラダイムが利用されている。CoDG とは人が視線を感じる幅を指し、社交不安の程度と正の相関が示されている (Chen et al., 2017)。CoDG を用いることで社交不安症の状態像をより解明できる可能性があるが、本邦では CoDG を測定する課題が開発されていない。そこで、本研究では Hu et al. (2017) を参考に CoDG を測定する中性顔の男女 2 名を用いた視線知覚課題を開発することを目的とする。</p> <p><b>【方法】</b></p> <p>対象者：健常な学生 14 名 (男性 5 名)。</p> <p>刺激画像：撮影した 4 名の顔を用いた (男性顔 2 名、女性顔 2 名)。それぞれ正面を見ている 0° に加え、そこから左右 1°, 3°, 6°, 9°, 12° に視線方向をずらした 11 枚の写真を撮影した。</p> <p>手続き：参加者は 1 回目と、1 週間空けて 2 回目の課題を行い、2 回分の CoDG を測定した。1 回目の課題終了後に、参加者は刺激画像の表情についてネガティブからポジティブまでの間で評価した。課題では、PC モニターの中央に固定十字が 1000ms 表示され、その後中央に刺激画像が 500ms 表示された。その後、参加者は刺激画像の視線方向について、右、自分、左の 3 択で回答した。この試行を 220 回行った。</p> <p>倫理的配慮：早稲田大学「人を対象とする研究に関する倫理委員会」の承認を得た上で実施した (2022-379)。</p> <p><b>【結果】</b> 1 回目に測定した CoDG の記述統計量は、女性顔①は <math>M = 10.28</math>, <math>SD = 1.43</math>, 女性顔②は <math>M = 8.79</math>, <math>SD = 3.24</math>, 男性顔①は <math>M = 10.81</math>, <math>SD = 2.61</math>, 男性顔②は <math>M = 11.85</math>, <math>SD = 1.68</math> であった。表情の感情価の平均値は、女性顔①は <math>M = 69.93</math>, 女性顔②は <math>M = 46.14</math>, 男性顔①は <math>M = 44.71</math>, 男性顔②は <math>M = 46.64</math> であった。表情の感情価に関する 1 要因分散分析の結果、顔の要因は有意で (<math>F(3,52) = 2.78</math>, <math>p &lt; 0.01</math>)、多重比較の結果、女性顔①と他の 3 つの顔においてそれぞれ有意であった。課題の信頼性検討のため女性顔②と男性顔①において 1 回目と 2 回目の CoDG を用いて級内相関係数 (2, 1) を算出したところ、<math>ICC = 0.61</math> であった。</p>	